

とべつ

歴史余話

第19回 トウベツアカマツセイウチ

2016年には映画「シン・ゴジラ」が公開された。熱心なゴジラファンでなくとも、日本生まれの怪獣ゴジラには、人を引き付ける魅力がある。実は当別町にも、かつて古代怪獣が棲んでいた。こちらは海に生息していた海獣トウベツアカマツセイウチである。

トウベツアカマツセイウチは、2015年に記載された新種のセイウチ化石である。当別町当別川流域の一番川層から産出し、その地質時代は、新第三紀中新世後期(約1000万年前)である。新種の元となった化石標本は、模式標本(ホロタイプ)とよばれ、北海道大学総合博物館に保管されている(写真1)。また当別町指定文化財(第14号)でもある。

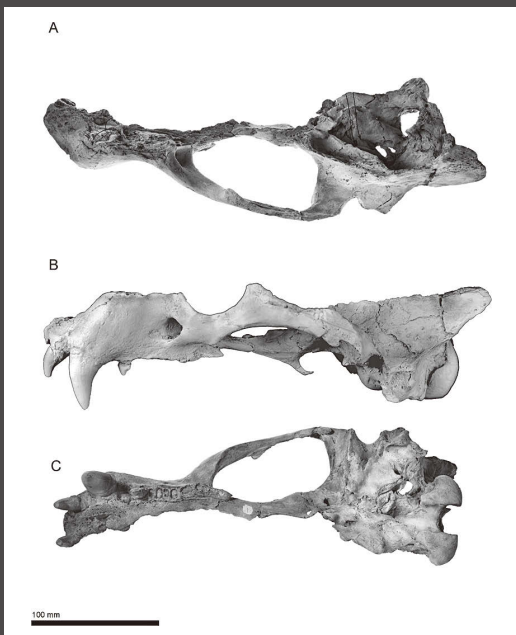


写真1 トウベツアカマツセイウチの頭骨化石
(大阪市立自然史博物館 田中嘉寛博士提供)

この化石標本は、1977年頃当別町教育委員会のメンバーによって発見された。当時から重要な化石と思われたが、岩石から化石を取り出すクリーニング作業は中断したままで、教育委員会の一室に保存されていた。

その後、専門の研究者によって、この貴重な化石が新種として記載された。体長約3m、現在のセイウチよりはやや小型だが、十分に迫力がある。今から1000万年前頃、当別の海で魚やイカを食べていたと考えられている(写真2)。実はこの他にも別種のセイウチ化石やヒゲクジラ化石が見つかり、当時の当別は海獣やクジラの楽園であったのであろう。

なお和名のトウベツは当別町に由来する。一方、アカマツは北海道の地質や古生物の研究に多大な貢献をされた故赤松守雄博士(北海道開拓記念館、現北海道博物館)に献名されたものである。当別産の化石を見る機会があると、当別の山野(特に獅子内や青山地区)を、ヤブこぎをしながら、赤松さんと歩いた日々を思い出す。



写真2 トウベツアカマツセイウチの復元図
(定寄動物化石博物館 新村龍也博士提供)

北海道教育大札幌校

鈴木 明彦

満面の笑みでウイスキーを 楽しんでいただきたい！

琥珀のエクスペリエンス

森田 利幸 さん



ふれあい倉庫でのテイasting体験

森田さんのその他のエピソードや写真は
当別町ホームページ「現在を生きる+」
でご覧ください。



町内でテイastingの体験会を企画して、ウイスキーの魅力を広めている森田利幸さんにお話を聞きしました。

憧れの北海道へ

ニッカウヰスキーに1981年に入社し、名古屋を皮切りに静岡、東京と全国を転勤していた時、新聞広告のスウェーデンヒルズの航空写真を見て、その風景に惚れ込み、平成10年に家を建てました。まだ現役で働いていたので、スウェーデンヒルズには家族旅行で訪れるくらいで、その後も大阪、富山、岩手など転勤を続け、50代に入り北海道への転勤を希望し、余市の蒸留所に併設されたレストランのマネージャーとして、ようやく北海道に来ることができました。

テイastingの魅力

レストランのマネージャーに就任したのが2015年、ちょうどNHKの朝の連続テレビ小説「マッサン」の放映が終了した直

後のウイスキーブームの時でした。程なくレストランのマネージャーからVIPのお客様担当に移り、年間15回開催するマイウイスキーツアーのお客様を対象に、ウイスキーの講師やテイastingを担当することになりました。そこでウイスキーを飲んでいるお客様の幸せそうな顔を見て、テイastingが自分の生きがいにならないかと考えて、「琥珀のエクスペリエンス」を立ち上げました。

テイastingの活動を開始

「琥珀のエクスペリエンス」を立ち上げた2019年にはあいの里で2回の勉強会を開催。2020年以降はふれあい倉庫で、コロナ禍ではありましたが感染症対策を施して、3回テイastingの体験会を行いました。

「満面の笑みで人生を楽しんでいただきたい」をモットーに、ウイスキーを通じて多くの人に喜んでいただきたいと、活動を続けています。

まちが元気になる活動を

今年はやねぐちさんとコラボして、6月と8月のナイトパークと7月の商工会まつりで出店します。ナイトパークではいつものテイastingを行います。商工会まつりでは趣向を変えて、アメリカンスタイルのウイスキーを楽しんでもらいます。イベントはまちを元気にするので、活性化につながればと思っています。

今後やりたいことは

今、青山にある山を切り開いて、山小屋を建てる準備を進めています。ゆくゆくは、大自然の中で生演奏を聴きながら、ウイスキーのテイastingをすることが夢です。

イベントのご案内

アメリカンウイスキーを 体験しよう！

7/23 (土) 12:00 ~ 18:00
第2回とうべつ商工会祭り
旧・カネヨよねぐち呉服店で開催